

11 指導目標、指導計画、授業 時数などの教育課程の編成 ・実施状況	12 観点別学習状況	14 児童による授業評価	16 体験的な学習や問題解決的 な学習、児童の興味・関心を 生かした自主的、自発的な学 習状況	17 個に応じた指導の充実状況	18 授業や教材開発における外 部人材の活用状況	19 地域の自然や文化財、伝統 行事などの教育資源の活用 状況	110 学校図書館の計画的利用及 び読書活動の状況	113 生活科・総合的な学習の時 間の実施状況	117 環境教育の実施状況
3.0	3.3	3.4	3.6	3.3	3.6	3.3	3.8	3.5	3.1

1. 1 1 ★学校経営計画（もしかしたら「教育目標」から）を見直し、総合的な学習の時間（そして『みらい科』＝学校の研究）の全体計画＜土台と基盤と骨組み＞をゴールまで半年の中で作り直し実践する。→総合の全体計画は、研究のカリマネと照らし合わせて修正・作成していく。

4. 1 6 ★「自ら考え（判断）表現する児童を育成する」ことが主題なら、授業（生活＜児童＞指導）の在り方から考え直し、問題解決的、（児童の）自主自発的な学習を目指した授業を低学年から積み重ねる。

9. 1 1 3 ○みらい科の見直し「全体計画」が入っていた→★研究で『再考』。→発表に向けて、今年度中にできるところまで作成していく。

★生活科を基盤にした合科的・関連的指導を1・2年生は考える「児童運転」。→研究のカリマネと照らし合わせて修正・作成していく。

★学年総合（案＜前年度実践＞）をつなぐ＝新年度はあくまで新学年の案→「学年総合＜R3年度実施＞」とし、新年度については、児童の実態やその時の状況に応じた内容に変更してもよい。

▲みらい科の時数の活用の割合が年度当初にわかっていなかった★来年度はスタートから全員が時数について理解した状態で始めたい。

▲コンバインに伴うみらい科と各教科の時数との調整★今年度の実績や反省を生かし、時数確保を行う→コンバインに充てる時数、DASHにあてる時数などをみらい科と確認して、年度初めまでに示せるようにしておく。

▲高学年は国語も専科になるため、午前中の時間割のしぼりが厳しい（学年で活動できない）★来年度、国語の専科はなくてもよいのではないか→国語少人数指導として実施

▲12月の音楽会、展覧会の実施は体育館使用が制限され、児童・教員にも負担が大きい

★展覧会、音楽会、学習発表会を隔年にする→R5年度学習発表会、R6年度音楽学習発表会、R7年度展覧会とする。（R6,R7の順番については引き続き検討。）また、空間ワークショップは展覧会の開催年に関わらず、2年に1度行う。

▲清掃時間の確保に課題がある（たてわり掃除の延期・中止が多く、実施していても実質10分間では十分に活動できていない）

★掃除時間をクラス掃除に統一し、実質15分間確保する 例：13：05～20

▲個人面談の実施を精選したい。7月と11月の設定は日時が近かった。→★7月は全員、11月は希望者&学校から要請があった人の実施にしたい。12月または1月の保護者会必要？

▲保護者会を2日に分けて、全学年同日開催にしたい。（せめて4月だけでも。全体保護者会の準備の負担軽減のため）→★13：30～ 2, 4, 6年、 14：30～15：00 全体保護者会 15：00～ 1, 3, 5年

▲読書時間をなんとかもう少し設定したい。他の取り組みと調整して読書集会の回数を増やしてもらうか、時間割の見直しをして朝読書などの時間がつくれるとよいが…

★読書集会のあり方について検討が必要。ボランティアからは、朝の時間帯がよいとの希望が出ている。しかし、朝読書の時間を設けていないので難しい。低学年の図書の時間を1時間目にして読み聞かせを行ってもらい、昼の読書集会は学期に1度程度にして呼応学年を中心に読み聞かせを実施するなどだと実施できるのではないか。→月2回程度は全校で集まる朝会、月1回程度は読書集会を入れる。

★読書月間の時期を変更したい。学芸会、音楽学習発表会、展覧会等大きな学校行事がある秋の実施は、企画を実行するのも読書に励むのも時間がなく難しい。7月や2月など、学校生活が少し落ち着く時期に実施したい。→そのように計画する。7月実施を検討

○成績が2学期制になったのは、教師も子どもたちもじっくりと学習に取り組んだり指導に時間をかけたりすることができたので大変よかった。

○スケジュール管理が丁寧で分かりやすかった。

117○dash jrで海洋汚染やごみについての本の読み聞かせによって関心をふかめることができた。

110○図書館スタッフが、授業で必要な本をブックトラックにご用意くださり、十分に活用できた

17○タブレットドリルパークを活用し早く終わった児童に練習問題をやらせ、学習内容をより一層定着させた。

○染の小道の復活、地域人材の活用、地域の施設見学、西落合図書館との連携など地域との関わりが復活してきてよかったと思う。地域の中の一員であるという意識やこの地域に対する思いをもてる子供たちに育ててほしいと思う。

○17 進度別にプリントを用意する、ドリルパークのAI機能を活用する、理解が進まない児童への個別指導など、各学年で手立てを工夫していると思う。

○18 特に高学年ではDASHや総合の授業でゲストティーチャーを積極的に活用し、児童の興味や関心を引き出したり、専門的な内容を伝えていただいたりしていると思う。

○110 学校図書館の利用時間を割り当てていることで、図書の時間を確保できている。低学年では、講師による読み聞かせなどが児童にとって、図書を身近にさせているよい時間だと思う。

○113 1年生では、研究授業を計画・実施したこともあり、昨年度以上に活発に自然と触れ合う機会や校外の様子について知ることができた。

○今年度は企業連携や地場産業、地域協働などいろいろな場面で外部とつながることができ来た。繋がった縁を切らないように来年度への引継ぎをしっかりとしていきたい。

81 校内における研修の実施体制の整備状況	83 校内・校外研修(各教科、新教研等)の実施 状況(研究授業、教材研究・指導方法に関する 研究等)、OJT、Off-JT、ショート研修	82 校内研修の課題の設定状況
3.4	3.3	3

▲研究の方向性について共通理解が必要→年度当初の全体会で確認

★評価規準などの設定を早期に行い、それに基づいた計画を立てていく必要がある→理論部で行う

▲研究発表が来年度だが、資料等積み上げがない。→環境・庶務部で整えていく

★研究発表のイメージを学校全体で早い段階で持ちたい。

○今年はOJTに力を入れられてよかった。交代に先生方がそれぞれの専門を教えてくれるため勉強になった。

▲OJTをする側としてもっと分かりやすい内容や実施の仕方を考える。

★来年度も（発表があるため程々で）続けていき、専門性を高めたり、情報交換の場とする。

▲コンバイン型学習が分からなくて、非常に悩んだ。来年度は発表なので「おちろく小」としての結論を出したい。

★研究授業中に気づいたことや指摘事項などタブレットに入力できると、協議会がスムーズに進むのではないか。JamboardのようなツールをICT支援員に提案してもらってはどうか。

★付箋+模造紙を復活してもよい。

▲OJT研修は、任意参加ということもあり、年間で内容をスケジュールされていなかったのが残念だった。→年会計画を立てる

★どのようなOJT研修がニーズがあるのか、リサーチも必要と思う。